

県内有効求人 10月1.54倍

バローHD大量提出で上昇

岐阜労働局が29日発表した10月の県内有効求人倍率(学卒を除きパートを含む、季節調整値)は、前月を0・05ポイント上げた1・54倍だった。上昇の要因は10月の最低賃金引き上げに沿った賃金体系でバローホールディングス(HD)が求人を大量に提出したためで、バローHDの求人が例年と同様だった場合は前月(1・49倍)並みとみられる。

有効求人数は前月比1・8%増の4万3513人と、2カ月ぶりの増加。有効求職者数は1・8%減の2万8221人と2カ月連

続で減った。

新規求人倍率はバローHDの大量提出の影響で前月から0・37ポイント上昇の2・75倍と大幅に上昇。新規求人数はバローHDの求人増で8・5%増の1万5271人、新規求職者数は6・2%減の5552人だった。

ハローワークは企業に対し、人事権のある場所で求人をもとめて出すよう促しており、バローHDは全国の店舗の求人をハローワ

ク多治見に提出した。バローHDの求人は今回、新規求人数の12・13%を占めた。

産業別の新規求人数は、卸売業・小売業が前年同月比35・7人増で、建設業が142人増、生活関連サー

ビス業・娯楽業が38人増と続いた。一方、製造業は321人減、宿泊業・飲食サービス業は174人減、金融業・保険業は56人減だった。

サービス業のうち、労働者派遣業が9カ月連続で増えており、千葉登志雄局長は「製造業の求人が減り、派遣が増えてい

る」が派遣にシフトしている可能性がある」と指摘した。

都道府県別の有効求人倍

率で岐阜県の順位は4位

(前月4位)。愛知県は1

・25倍、三重県は1・15倍

だった。

